

千葉大学看護学部
同窓会たより
2007年5月発行

ご 挨拶

同窓会会長 中村伸枝（2期）

若葉の美しい頃、同窓会会員の皆様に置かれましては、新年度を迎え新たなお気持ちでご活躍のことと思います。

30周年を過ぎ、同窓生の数も2,400名あまりになろうとしています。全国で4年制大学が急増し160校に迫ろうとする現在、同窓生は全国各地の医療、保健、福祉、教育施設等で活躍しています。同窓会が行う個人票による動向調査は、看護学部の同窓生の動向を把握するただひとつの方法です。名簿の発行はオリンピック年となりましたが、個人票による動向調査は確実にやっていく必要がありますので、今後ともご協力をお願いいたします。また、本年度より看護学部同窓会のホームページが開設予定ですので、ぜひご覧下さい。現在は、発信のみですが今後は近況報告や情報交換などができるようにしていきたいと思っておりますので、ご意見をお寄せ下さい。

全学の校友会の動きとしては、千葉大学60周年に向けて千葉大学基金が創設され募金活動が行われることとなりました。校友会ニュースの発刊やホームページの充実など、千葉大学の活動が皆様に伝わるよう調整が進められております。募金活動のお願いが届きました際には、ご協力をよろしくお願いいたします。

私事ですが、10年間務めさせて頂いた同窓会長を3期の岡田忍さんに引き継がせていただくことについて総会で審議頂くことになりました。長い間、ご協力頂きましたことに御礼申し上げます。至らなかった点も多かったと思っておりますがご許し下さい。

今後とも、看護学部同窓会へのご支援をよろしくお願いいたします。

活動目標：精度の高いデータベースの構築をはかるとともに、ホームページの開設などを通して 在校生や卒業間もない同窓生にも魅力ある同窓会活動を行う

ご 挨拶

同窓会顧問 学部長 森 恵美（3期）

同窓会会員の皆様、この4月から看護学部長を拝命しました森恵美でございます。私は看護学部3期生、同窓会会員でもありますので、このように母校の管理運営、発展にリーダーとして直接的にかかわる立場になりましたことを非常に光栄に思いますと同時に、この重責に身の引き締まる思いでございます。また、約30年の歴史をもつ同窓会が、看護学部の後ろ盾になってくださることを大変ありがたく思っております。人が変わっても、看護学部が同窓生皆様にとって実家のような存在となり、看護職者の新生・再生、成長・発展の場となるように努力したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、国立大学法人千葉大学となりましてから、看護学部は石垣前学部長の強力なリーダーシップにより、21世紀COE研究拠点形成、乳がん認定看護師教育、特色ある大学院教育プログラム（特色GP）等が開始され、看護学部は創立30年を節目に外部資金を獲得し発展途上にあります。新年度より、博士後期課程の定員が3名増員され、基礎看護学において病態看護学と看護管理学を主専攻とする大学院生が初めて入学します。大学院の看護システム管理学専攻においてもケア施設看護システム管理学という領域が増え、修士課程の定員が9名になりました。

本年はCOE最終年、新カリキュラム3年目にあたり、グローバルCOE獲得等新たな大型外部資金獲得を視野に入れた、「看護学部の目指すところ」（看護学部HP参照）の実現に向けて、総力体制で教育・研究に忙しく従事しています。

少子化と看護系大学の急増により、本学部の志望生も残念ながら減っています。そこで、皆様にお願いがございます。将来看護学の立場から生涯にわたって社会貢献する意欲のある方が身近にいましたら、看護学部応援団としてリニューアルされたHPを活用して、千葉大学看護学部をPRしていただけると大変ありがたいです。

仕事と家庭生活を両立していくことは、生涯専門職、教育研究職として活躍するときに必要なことであり、千葉大学看護学部としてもそれを支援する委員会をつくりました。千葉大学全体としても、教職員が気兼ねなく産休、育休、介護休暇等に取得でき、職場復帰できることが重要課題となっています。そこで、是非、同窓生の力を借りたいと考えております。産休等を取得した教員に代わり看護学部の教育を担当する支援者、教育補助者を募集し、登録していただくことを考えております。支援者は非常勤雇用とはなりますが、その後のキャリア形成、進学、就職等について看護学部が支援することを考えております。ワークシェアリングの可能性も検討する予定ですので、可能性のある方は登録していただけますと幸いです。これについても看護学部HP等でご案内しますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、看護学部は卒業生や修了生等看護学部集った人々との生涯にわたる交流を大事に成長し、社会貢献していきたいと考えております。看護学部に対しての要望や忌憚のないご意見をお待ちしております。また、千葉大学校友会によるSNS（コミュニケーションサイト）、50周年に向けて千葉大学基金の募集が始まります。今後とも、看護学部、千葉大学をご支援下さいますようよろしくお願い申し上げます。

母性看護専攻教育課程

母性看護学教育研究分野 森 恵美

母性看護専攻教育課程には3つの種類があり、千葉大学大学院の場合は、周産期看護を専攻分野専門とする母性看護専攻教育課程である。晩婚化、少子化、高度生殖医療技術の進歩により、看護を受ける対象者の個別なニーズの多様化が進み、着床前からの出生前診断や倫理的問題等が指摘され、周産期において看護学の立場から解決すべき問題が多様かつ複雑になっている。このような現状を受けて、本専攻教育課程は、この周産期看護領域、受精から新生児期、乳児期までの継続した質の高い看護を提供できる人材の需要に対応した教育プログラムである。

本大学院の博士前期課程（主専攻：母性看護学）に所属する大学院生で、課程修了後専門看護師認定試験を受けようとする者は、以下のような履修が必要となる。すなわち、専門看護師教育課程の共通科目（8単位）として、本学の看護教育学Ⅰ、看護管理学、看護実践方法論Ⅰ、看護実践方法論Ⅱの履修が、専攻分野共通科目として、母性看護学Ⅰ（2単位）、母性看護学Ⅱ（2単位）、看護学演習（母性看護学）：「パート1：周産期母子看護学（2単位）」の履修が、専攻分野専門科目として、看護学演習（母性看護学）：「パート2：周産期看護実習 6単位 270時間以上」と特別研究（母性看護研究演習A：6単位、母性看護研究演習B：6単位）の履修が必要となる。これらの履修単位は36単位となり、修了要件を満たすことができるので、修士（看護学）も取得できる。しかし、2年間という短い時間で看護学の研究方法論を学び、母性看護学について高度な実践能力を育成するという2つの目標を達成することは、当事者の強い意欲と個人的な努力を要すると考えている。

現在まで、専門看護師を志望し、履修した学生は1名であるので、評価できる段階ではない。しかし、1名の経験ではあるが、実習施設との関係も良好であり、受け持ち事例本人、現場の指導助産師、臨床心理士、などからもさまざまな視点で援助を受け、専門看護師の6つの機能について多様に学び、高度な実践能力を身につけていた。母性看護CNSはまだ全国で約10名程度しか誕生していない。母性看護領域において高い専門性をもち、それを発揮して、質の高い看護を提供できる助産師を育成したいと願っている。

専門看護師教育課程（小児看護）

小児看護学教育研究分野は、2005年3月7日に専門看護師教育課程（小児看護）の認定を受けました。CNSコースをもたない研究科の課程認定のため、現行の科目内容を照合表に照らして吟味し、資料作成を繰り返しました。CNS希望の研究科生が在学する差し迫った状況での申請でしたが、その次期に科目内容を吟味したことが結果的には今とても役立っていると感じています。

CNS希望の研究科生は、小児看護にかんする修得単位は通常の研究科生と変わりませんが課題レポートや演習が多く、加えて、6単位（270時間）のCNS実習が課されています。CNS実習では、常に倫理的な視点を持ち、相談・調整・教育などの役割を担うことが求められます。現在は1年次の1~3月に実習を行うため、修士論文研究の計画書作成時期と重なり、かなりハードなスケジュールになります。それでも、課程認定後4人がCNSのカリキュラムを終えて修了しています。また、小児看護のCNSとして15期の松岡真里氏（千葉県こども病院）が認定されたことも大きな喜びでした。

千葉大学の専門看護師教育課程は、ハードである分、研究と実践の両方の能力が高められるという利点があります。専門看護師は、優れた看護実践能力が備わっているだけでなく、看護師同士あるいは他の専門職者との間で良好な人間関係を築きながら、問題を解決していく能力も必要です。CNSとして活動していくときには、年齢や経験年数、そして本人の特性も活動に影響を与えます。

対象の理解を深め、倫理的視点を持ち看護実践能力を磨くという丁寧な看護実践の上に、相談、調整、教育、研究の能力を積み重ねていく学習は、ハードですがやりがいも大きいと思います。小児の健康問題が複雑な背景をもつ現代のなかで、CNSが小児看護の質向上に寄与することを祈念しつつ教育に取り組んでいます。

丁寧な看護実践を積んできた意欲ある方々の入学をお待ちしています。

がん専門看護師 教育課程について

がん医療の進歩やがん医療に対する人々の関心が高まっており、政策の面でも、がん医療に関する変革が起こりつつあり、専門看護師の役割はますます重要なものとして認められてきています。

千葉大学大学院研究科では、以前より大学院入学後に看護実践の場における実習を行い、希望する分野で看護実践力を高め、高度な看護実践を可能とした上で、その看護実践を研究対象として修士論文として作成するという指導が行われてきた経緯があります。現在もこの考え方を踏襲し、専門看護師教育の中に活かしています。従来と異なる点は、看護実践方法論Ⅰ、Ⅱの中で、看護倫理、看護政策、看護理論、コンサルテーションなど、専門看護師としての役割に関する理論的基盤を学習することと、専門看護師に特化した演習・実習が加わったことです。

がん専門看護師を希望する学生は、成人看護学Ⅰ、Ⅱ、看護学演習、特別研究等の従来の科目の履修に加え、専門看護師の役割を学習する演習・実習を行う必要があります。

現在の実習内容は、大学病院における外来での患者支援、研究分野に連動した領域における実習、専門看護師の役割に関する実習などです。

がん専門看護師を目指す人は、専門領域の学習への強い動機が必要です。大学院での学習は、自己学習や経験を積むだけでは修得できない種類の学習が可能になりますが、自己の能力の限界に直面する時もあります。この山を乗り越える原動力は、学習動機だと思います。専門看護師は現在多くの病院で期待されており、専門看護師を目指すことは、自らのキャリア開発という意味を持つことでしょう。しかし、このイメージを強く持ちすぎると、実際に専門看護師として仕事をする上での妨げとなります。専門看護師の教育課程が導入された理由は、看護実践を目指す看護師のキャリアアップと同時に、医療機関における質の向上があるからです。入学を希望する方には、専門看護師の資格取得を目指すと同時にがん医療に関する医療の質の向上、すなわち医療を受ける人々やその家族、医療機関で働く人々、地域の人々への貢献を目指していただきたいです。

本課程は、看護系大学院の中でも歴史があり、大学院修了者の中でも専門看護師資格取得者および専門看護師資格取得希望者が多くいますので、大学院在学中、修了後のネットワークを作ることができます。また、現在大学院修了者の支援プログラムを展開中ですので、修了してから専門看護師資格取得までの支援を受けることができます。詳しくは <http://www.ad-nursing-pg.jp/outline.html> をご覧下さい。

老人看護専門看護師（CNS）教育課程で学んだこと

千葉大学大学院看護学研究科では老人看護専門看護師教育課程が 2000 年より認定されています。本教育課程を修了した大学院生は 7 名で、そのうち 1 名が既に老人看護の CNS として活躍しています。2006 年度に受講した 3 名の学生さんからの生の声を以下に紹介します。

高齢社会となっている現在、老人看護 CNS は全国に 10 名おり、それぞれ急性期病院、老人病院等で活躍されています。その老人看護 CNS の認定教育機関は千葉大学大学院も含め 12 校あり、各教育機関でのカリキュラムは様々だと思います。その大半がおそらく CNS コースとして存在していると思いますが、我が千葉大学大学院では、あえてその区分がなされていません。少し大変かもしれませんが、CNS を目指し看護実践を高めつつ、本格的に研究にも取り組むことができます。CNS になるための実習では、すばらしい高齢者ケア専門家である指導者の方から指導を受けられ、『目からウロコ』を感じるようなすばらしい学び、大変貴重な学びを得ることができます。(H18 修了 菅谷綾子)

千葉大学大学院で行われる老人看護 CNS 課程の大きな特徴の一つは、病院や施設、そして在宅看護それぞれの実習が年間を通したプログラムに無理なく、しかし豊富に組み込まれているという点です。関東では少ない老人看護 CNS や、エキスパートナースが働く場所とともに実践しながら、直接指導を受けたり、またディスカッションを通してエキスパートナースの実践知である知識や技術を幅広く吸収することができたことは、大変貴重な学びであったと思います。また、老年期にある人々は、長い人生経験を経た大先輩であり、人生観や価値観など学ぶべきことが多くありますが、そうした方々と寄り添い、時に向き合っていくために必要な人としての姿勢や心構えもまた、この CNS 課程を通して深められたと考えます。(H18 修了 森野愛)

CNS 課程での学習は高齢者の入所施設、通所施設、病院や訪問看護ステーション等での実習が中心でした。実習期間は施設によって、数日間からのべ1ヶ月というものでありました。私は社会人学生だったため、病棟勤務と調整しながら、同一施設を数回に分けて実習することもありました。実習内容はエキスパートナースの卓越した技に直に触れ、自己の学びや実践をディスカッションするものと、もう1つは、いわゆる一般的なケア環境の施設において CNS としてどんな実践をするかを、現場の実状をふまえ文献や臨床経験をもとに考え試行し、その反応を評価しながら現場とディスカッションするものでした。文献から得た情報を現場で使える形にして展開し、改めて自己の実践の意味を振り返り、他者に評価されるという点でも学びは大変深かったと思います。(H18 修了 高橋香代子)

乳がん看護認定看護師教育課程

専任教員 阿部恭子

乳がん患者の増加にともない、患者や乳がん医療を取り巻く社会から乳がん看護のエキスパートを求める声が高まっているのを背景に、2003年に日本がん看護学会が母体となって申請した乳がん看護の分野が、認定看護分野に特定されました。それを受けて 2005 年に千葉大学看護学部が、附属看護実践研究指導センターに本教育課程を開設することとなりました。現在、わが国での乳がん看護分野の教育機関は、千葉大学唯一です。本教育課程では、乳がん看護のエキスパートに必要な教育プログラムの開発・実施と、教育プログラムの評価・洗練、さらに乳がん看護認定看護師の活動の普及・推進を行っています。

認定看護師には特化した技術が求められますが、乳がん看護独自の専門的看護技術としては、乳がんの集学的治療にともなう副作用に対するケア、治療継続に必要なセルフケア確立に向けた指導、リンパ浮腫のケア、ボディイメージ変容にともなう心理・社会的問題に対する支援、が挙げられています。

本教育課程は、10月から翌年3月までの6ヶ月間(630時間)のプログラムで、定員は30名です。10月から約3ヶ月間、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」を履修し、乳がん看護に必要な知識・技術の学習を深めた後に、1月からは、埼玉・神奈川・東京・千葉の15カ所の医療機関で、5週間の実習を行います。実習では、継続的に3事例を受け持ち、チームアプローチにおける連携・協働を視点に入れた系統的な看護を展開します。さらに、化学療法・内分泌療法・放射線療法を受ける患者へのケアについて、病棟・外来にとどまらず、化学療法部門、放射線治療部門、検査部門など、施設内の他部門での主体的な実習を行います。実習後は、修了試験の勉強に引き続き、事例報告会のための抄録・プレゼンテーション準備と息つく間もない日々が続きます。研修を終えて手にする修了証書は、これから乳がん看護のエキスパートとしての責任と期待の重さを意味するものです。

初年度のみ20名の定員でしたので、平成18年8月に、20名の乳がん看護認定看護師が誕生しました。最近、患者向けの雑誌やメディアでも取り上げられ注目が集まっています。乳がん患者・家族はもちろん、医師・コメディカルからも乳がん看護認定看護師の活躍が大いに期待されています。

平成19年度千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

—博士前期・後期課程及び修士課程対象—

今年も、下記のように実施いたします。

参加を希望される方は、平成19年6月15日(金)17:00までに、お名前・ご住所・電話番号・Eメール・決定していれば志望教育研究分野を記載し、「大学院説明会参加希望」と明記の上、ハガキ、FAX、Eメール等でお申込み下さい。

日 時：平成19年6月23日(土) 集合時間12:50、開催時間13:00

場 所：千葉大学看護学部 第1講義室

内 容：看護学研究科の概要と特色、カリキュラムの説明、大学院生からのメッセージ
専攻別質問コーナー、大学院生との交流

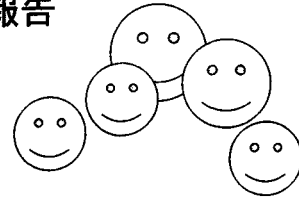
お問い合わせ・お申込み先：〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 看護学部大学院担当

TEL 043-226-2450, FAX 043-226-2382

Eメール : tae5667@office.chiba-u.jp

千葉大学看護学部ホームページ: <http://www.n.chiba-u.jp/>

平成 18 年度 同窓会企画報告



日時： 2006 年 7 月 1 日（土） 13：00～15：30

テーマ： 元気をもらって帰ろう！！

企画内容： ビデオレター上映・年表・30 周年記念集会の写真展示 （第 1 講義室）

座談会 <1> 子育てと介護を語ろう （カンファレンス 2）

<2> 新人看護師が先輩看護師に求めるもの （セミナー 1）

平成 18 年度の同窓会企画は、「元気をもらって帰ろう」というテーマで 7 月 1 日（土）13 時からに総会に先立って開催されました。30 周年記念集회에寄せられた懐かしい先生方からのメッセージを編集したビデオレターの上映と「子育てと介護を語ろう」と「新人看護師が先輩看護師に求めるもの」の 2 つの座談会を実施し、同窓生 42 名が参加しました。

ビデオレターでは杉森先生、前原先生、兼松先生、野口先生、佐藤先生他懐かしい先生方のお声を聞き、お顔を拝見することができました。座談会は、各自の子育てや介護の経験を交換し合ったり、それぞれが抱えていた問題を客観的に見つめなおす機会になったようです。特にテーマ 2 の「新人看護師が先輩看護師に求めるもの」には、卒業期の若い同窓生が多く参加し、アンケートでは「初めての参加でしたが、とても勉強になりました。参加してよかったです（27 期）」とコメントがありました。このように、参加した同窓生が何らかのかたちで元気を持ち帰ってくれたのではないのでしょうか。

今後も、卒業期の異なる同窓生同志がもっと触れ合い、それぞれの悩みを共有したり、お互いに刺激し合えるような企画を考えていきたいと思います。

最後になりますが、企画に参加してくださいました同窓生の皆様、当日の運営にご協力いただきました同窓生の皆様にあらためてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。そして、今年もまた是非来てくださいね！

企画委員一同

参加者内訳

卒業期	ビデオレター	座談会 1	座談会 2
1～5	2	1	
6～10	5		1
11～15	7	4	
15～20	5		
21～25	4	1	1
25～	6		5
合計	29	6	7